

令和5年度 普及活動外部評価

【外部評価の目的】

普及活動が高度化・多様化する中で、外部評価委員会において、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的・効果的な普及活動の推進に資する。

【実施概要】

- (1) 日 時 令和6年10月28日(月) 午後1時30分～午後4時40分
- (2) 場 所 森林総合研究所大会議室、市川三郷町(現地調査)
- (3) 評価対象及び方法

令和5年度の普及活動年度計画に掲げた32課題及び重点プロジェクト計画に掲げた11計画の活動実績を外部評価対象とし、この中から3つの普及活動を抽出し、評価委員へ具体的な説明と現地調査を行い、全ての課題について評価を受けた。

〈抽出した普及活動〉

- ① 新規就農者の確保・定着支援(峡南農務事務所)
- ② 都留市における果樹の産地支援(富士・東部農務事務)

【評価委員】

7名

○学識経験者

古屋 亮氏(山梨学院大学経営学部経営学科教授、座長)

○民間企業等

堀内 修氏(山梨県中小企業団体中央会経営支援課 課長)

○農業団体

足達 郁也氏(農業協同組合山梨中央会 専務理事)

武藤 雅美氏(公益社団法人山梨県果樹園芸会 会長)

○農業者(先進的な農業者、女性農業者)

加々美 和洋氏(山梨県指導農業士会 会長)

佐藤 裕子氏(富士山すみれパティスリー代表)

○消費者

小沢 浩二氏(生活協同組合パルシステム山梨長野 常務理事)

【令和5年度普及課題一覧表】

	普及活動課題	活動 事項数	抽出した普及活動
1	中核的担い手の育成・支援	3	
2	新規就農者の確保・育成	4	① 新規就農者の確保・定着支援
3	スマート農業の導入推進	2	
4	果樹の省力化と生産安定	3	
5	果樹産地のブランド力の強化	5	② 果樹の産地育成
6	野菜の生産安定	3	
7	水田農業の低コスト化と生産安定	1	
8	花きの生産安定とブランド強化	2	
9	畜産ブランドの育成と産地強化	2	
10	地域資源の利活用促進	2	
11	地域特産農産物の生産振興	2	
12	都市農村交流による農山村の活性化	2	
13	生産体制の構築	1	

【令和5年度重点プロジェクト計画】

	計 画 名	抽出した普及活動
1	やまなしGAP認証に向けた指導・審査体制の整備と取組強化	
2	JA指導員との連携と普及指導員の資質向上	
3	中核的担い手の育成に向けた活動支援	
4	新規就農者の確保・育成	
5	スイートコーンの産地拡大に向けた取り組み	
6	施設野菜産地の強化に向けた施設内環境管理技術の改善	
7	水田農業の低コスト化と生産安定対策	
8	県オリジナル品種等を導入による花き産地の強化	
9	県オリジナル品種等を導入による果樹産地の強化	
10	気象変動に応じた果樹の生産安定対策	
11	畜産農家の生産意欲向上	

【評価項目と評価視点及び評価点】

評価項目	評価視点
普及活動計画の内容	<p>(普及活動基本計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者の意見や意向が十分に把握されているか ・ 県、市町村等の計画との整合性はとれているか ・ 市町村、農協、農業委員会等、関係機関との調整は行われているか (普及活動年度計画) ・ 普及活動基本計画との整合性がとれているか ・ 年度内に取り組む課題解決のための具体的な計画となっているか ・ 普及課題は地域の現状や時代のニーズを考慮した設定となっているか ・ 普及課題に即した具体的な目標が設定されているか ・ 農業者や消費者の意向、地域状況の変化等を取り入れたものとなっているか ・ 普及対象は適切に選定されているか
普及活動の取り組み(体制及び手法)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的かつ継続的な活動体制となっているか ・ 試験研究機関や市町村、農協等、関係機関との連携、役割分担はとれているか ・ 普及活動計画の進行管理は適切に行われているか ・ 活動方法、活動時期は適切であるか ・ 情報の蓄積、管理や発信体制は適切であるか
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及活動計画に基づき活動が実施できたか ・ 成果が地域農業者や産地の振興につながっているか ・ 対象農業者の意識改革が見られた活動であったか

【評価点】

■各評価項目及び総合評価について、下記の区分で評価

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

【各評価項目に対する評価点及び委員からの主な意見、提言】 (評価点：満点5点)

■評価項目：普及活動計画の内容 評価点 5.0

- ・ やまなし農業基本計画内容に応じて必要とする支援が網羅的に普及活動として計画されている。また、各地域の実情に即しながら普及活動を進めている。
- ・ それぞれの地域の実情を背景に実績につなげる取り組みは、本県農業の振興につながる取り組みである。
- ・ 計画の推進にあたり、具体的な数値目標や活動時間が掲げられ、評価指標に基づき適切な取り組みが明記されており、わかりやすく効果的である。
- ・ 本県のみならず、全国的な課題となっている担い手の確保育成など、きめこまやかな計画を高く評価する。
- ・ 気候変化に伴い新たな果樹産地育成支援に取り組み、将来を見据えた普及活動内容は評価できる。

■評価項目得：普及活動計画の取り組み（体制及び手法） 評価点 4.8

- ・担い手育成において、地域普及センターが地域の農業者や市町村等との連携により、就農・定着に向けた課題を発見し、解消に向けた取り組みが機能しており、本県農業の維持・発展に7欠かせない存在であると評価する。
- ・各地域の普及センターの課題に対し、市町村や関係団体との連携を通し、きめ細かいサポートを行い、課題解決や目標達成に向け、確実に前進している点を高く評価する。
- ・担い手育成の活動手法として、農業法人など民間事業者と連携した点を評価する。
- ・指導体制や販売先がない地域において、新規品目を導入し、こめ細やかな指導等の活動は大変だったと感じた。

■評価項目：活動の成果 評価点 4.8

- ・普及センターが技術指導のみではなく、担い手の経営課題の共有と解決支援に取り組み、本県農業の維持・発展に欠かせない存在であると評価する。
- ・普及センターの職員が地域農業の将来を見据え、熱意を持って普及活動に取り組み、着実な成果を上げている。
- ・生産現場の声や実態をしっかりと捉え、農業者と共に進んでいくことを期待する。
- ・きめ細やかな支援の結果、新規就農者が定着し、果樹の生産拡大が図られており、高く評価する。
- ・新たな果樹産地育成について、きめ細やかな技術指導等により新規就農者や生産量も増加しており、地域農業の将来性を期待できる活動である。

■評価項目：総合評価 評価点 4.8

- ・行政や地域、農業者が一体となり、地域の実情に即した取り組みを進める必要がある。今回の課題は、地域とも連携し普及活動を展開し、地域の農業生産活動に大きく貢献しているといえる。
- ・普及計画に基づく活動は、様々な関係機関等が体系的に携わり、実践している点を高く評価する。
- ・将来を見据えた新規品目の栽培実証などの取り組みを期待する。

■その他

（現地調査など）

- ・今後、農業就業構造が劇的に変化することが想定され、担い手に対する農地の安定確保に向けた取り組みを期待したい。
- ・個々の普及計画の取り組み内容を地域や消費者に発信していくことで、生産者と消費者のつながりや地産地消の推進に繋がっていくと思う。
- ・「儲かる農業」のためにも、農業協同組合等と連携し、新規就農者の就農時の負担軽減のため、離農した農業者の農業機械等を継承する取り組みも進めて欲しい。

【評価を踏まえた今後の対応】

今回の評価対象とした令和5年度普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画について、委員の皆様からいただいた評価及び意見をもとに、令和7年度の普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画の活動内容及び活動方法の改善に反映させていくこととする。

「令和5年度普及活動外部評価の様子」



検討状況



評価委員への説明



現地調査